



Vol.43

NANAKAMADO

本学図書館



図書館内A Vルーム

■目次

02 ■ 入学式

03 ■ 学生部長あいさつ

04 ■ 新任教員あいさつ

10 ■ 南京大学から編入生

11 ■ 中国江蘇省科学技術代表団来学

12 ■ 南京大学日本文化研修

13 ■ 高大連携

14 ■ 体育祭

17 ■ 「海外事情」オリエンテーション

17 ■ 保護者会役員会開催

18 ■ YOSAKOIソーラン

20 ■ WEBデザインコンテスト

21 ■ サミットでYOSAKOI

21 ■ 学生相談室

22 ■ 学内共同利用施設紹介

24 ■ 今どきの就職活動について

25 ■ キャリアガイダンス講座

26 ■ セミ紹介

27 ■ クラブ活動紹介

28 ■ 平成20年度公開講座

30 ■ 平成19年度決算の概要

32 ■ 主要行事・編集後記



発行：北海道情報大学
〒069-8585
江別市西野幌59-2
TEL 011-385-4411
FAX 011-384-0134
2008年7月20日発行

平成20年度 入学式



祝辞を述べる松尾理事長



告辞を述べる嘉数学長

4月4日(金)午前10時から、本学松尾記念館講堂において、平成20年度北海道情報大学入学式が行われました。

入学式の模様は、式場に設置されたテレビカメラ4台により、保護者室の202教室と204教室、そして全国にある通信教育部の各教育センターにも生中継され、多くの保護者や教職員に見守られる中、1,000名余りの新入生が、情報大学生として、新たな大学生活をスタートさせました。

今年度からの新たな試みとしては、式場内に保護者席を設置したことと、後でも述べますが式終了後に大学説明とクラス別ミーティングを行いました。式場内の保護者席は、座席数の関

係もあり多くは用意できませんでしたが、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の中行われました。

式の中では、入学生代表として、山本拓さん(システム情報学科)が、南京大学編入学生代表として、許鷺^{きよろ}さん(情報メディア学科3年)が、これからの学生生活の抱負について宣誓しました。

式終了後には、新入生と保護者に対して、ソーラ准教授の自作による映像を使用した、これからの大学生活等について、ユーモアを交えながらの大学説明を式場内で行い、その後、クラスごとに分かれて場所を教室に移し、新入生・保護者・クラス担任の顔合わせを兼ねたクラス別ミーティングが行われました。



祝辞を述べる南京大学王院務委員会主任(右)と通訳の汪講師(左)

- 式次第
- 修礼
 - 開式の辞
 - 学長告辞
 - 理事長祝辞
 - 南京大学来賓祝辞
 - 祝辞・祝電披露
 - 教員紹介
 - 入学生代表の言葉(宣誓)
 - 南京大学編入学生代表の言葉
 - 閉式の辞
 - 修礼

新入生を迎えて

学生のサポート

事務：主に諸手続などで、皆さんが行く場所
とくに

教務課

履修・試験・成績など

学生サポートセンター

学生生活・奨学金・寮・クラブ・

就職など

(詳しくは、学生便覧を参照)



学生委員会(教員組織)

本学での学生生活を中心に議論します。
(みなさんの懲戒も議論しますが・・・)

学生サポートセンターの力を借りています。

学生委員の責任者が学生部長です。



学生の組織

- ・実行委員会
- ・ピアサポート ルーム

この他に学生相談室(心の相談)も
あります。でも一番身近なのが

友達と担任

です。



親入生の宿泊研修(4月8・9日)に先んじて、新入生を前に話をさせて頂きました。そのときに使ったのが、上の3枚のスライドです。話をするに当たって、新入生が学生部長という職を知るはずもなく(在生も?)、出てきた私は誰だろうと不審に思うであろうと思いました。そこで学生部長がどのような仕事をするのかを説明し、その上で宿泊研修の意義で一番大事な「人を知り、友人を作る」事を強調させて頂きました。

ここで、少し学生部長(または学生委員会)について述べておきましょう。上のスライドにも書いてありますが、本学には学生達を支える仕組みが幾つかあります。その中で、学生生活一般・奨学金・寮・クラブ・学生の表彰と懲戒などを議論し行う教員組織として「学生委員会」があります。この委員会は各学科の教員・副事務局長・事務局次長・学生サポートセンター室長からなり、その委員長を務めるのが学生部長です。この委員会を構成するメンバーを見ても、大学における学生委員会、ひいては学生生活の重要性を表しています。また学生委員会は、みなさんがよく知っている「学生サポートセンター」と車の両輪の様に活動を行っていることも知っておいて欲しいと思います。なお宿泊研修当時(と言っても4月ですが)になかった組織もあります。その一つが障がいを持つ学生のサポートを考える「障がい者サポート委員会」です。この委員長も学生部長です。それと「音声情報サポート学生委員会」です。この委員会は、PCテイカーのボランティア学生達で構成され委員長も学生が就く、という本学で最初の学生による正式な委員会です。学生が行うボランティア活動に、大学が期待していることの表れだと思って下さい。

これらの委員会は、学生の教育環境・学生生活の環境・規律の維持などに心を配り、学生の満足度を上げ

るべく学生サポートセンターと共に活動しています。ただ私が学生部長に就いたのは今年からですので、不慣れなこともあり、学生達から良い成績を貰えそうにありません。これをより良い成績としたいので、教員ばかりでなく新入生を含め学生からの意見を素直に聞いていきたいと思います。いつでも意見を言いに来て下さい。なお私の研究室は224です。

さて少し宿泊研修の話を書いておきます。今年度の新入生オリエンテーションは「スタートアップ・プログラム」と称して1週間かけて行われ、その一環として宿泊研修が行われました。いつものプログラムに加え、今年はビンゴゲームがあり、学生サポートセンター提供のDSが当たった学生もいたようです。

最後にそれぞれの学生に友達と呼べる学生が出来たか、という一番大事な問題についてです。講義・生活などで一番頼りになるのは、友達ですから非常に気になる問題です。私が担任をしています1年G2組(情報メディア学部メディアテクノロジー専攻)を見る限り、「ある程度成功したかな」という印象を受けています。ただ人間関係ですから、今後いろいろな変遷をたどっていくと思います。友人を含めた学生間の人間関係で、思い悩むことが多々出来ると思いますが、その問題も解決するのに友達が重要な鍵となると思います。友達同士で解決できない難しい問題は、担任・相談室・ピアサポートルームなど幾つかの相談方法があります。是非利用して下さい。



学生部長：松井伸也

時の流れと研究経緯

1964年の東京オリンピックを終えた翌年あたりから社会情勢が徐々に傾き、私たちが大学を卒業する1966年頃には就職場所もかなり限られていました。3~4年ほど後に続く団塊の世代の方々はもっと大変だったと思われます。当時、人気の最先端であった電子工学科を出たにもかかわらず、将来どの方面に進むべきか全く先の見通しが利かない状態でした。そんな折に、ぼんやりとした明かりのように見えたものが、当時固体回路と言われた現在の集積回路(IC: Integrated Circuit)の研究です。この研究成果の上に積み上げられたのが、今の情報技術であることは言うまでもありません。勿論、通信技術だってICの恩恵にあずかり、携帯電話や宇宙通信、果てはテレビやラジオに至るまで大きな変化をもたらしています。一方、このような時代になる直前に産声を上げた研究分野もあります。それは医学と工学の境界分野で、当時医用電子工学(ME: Medical Electronics)と称し、現在の医用生体工学(BME: Biomedical Engineering)または医工学と呼ばれる研究領域です。すでに実用化されているX線CT(X-Ray Computer Tomography)や磁気共鳴イメージング(MRI: Magnetic Resonance Imaging)などの新医療技術、また、強いて言えば北海道情報大学医療情報学科の存在さえも、この時期に医学と工学が握手したことによるものと言っても過言ではないでしょう。

奇しくもこの折に大学を卒業した私たちには、多くの中から行く末を決めるという選択の余地は残されていませんでした。しかし、身内に医者が多かった私は比較的容易に決断ができ、後者のMEの道を選び、大学卒業と同時に北海道大学応用電気研究所(現電子科学研究所)メディカル・エレクトロニクス部門に入ることができました。与えられた研究の他に不足の医学的知識を身につけるため、特に生理学や解剖学などの医学基礎科目を中心に医学部の講義を聴講させていただきました。1969年(昭和44年)に同研究所メディカル・テレメータ部門助手となり、以来10数年もの間、楽しい? 研究生活をおくりました。この時代の主な研究としては、極超低周波数低歪率正弦波発振器や高感度・超低

雑音電子回路に関する研究、また、磁力計や磁気応用に関わる研究などを行ってきました。胎児情報検出や微量呼吸計測もこの時代の研究です。

北海道大学に医療技術短期大学部が併設された2年後の1983年(昭和58年)、短大の4年制化と教育の充実化を目標として医療短大部へと配置転換しました。ここでは、主としてバイオメカニズムやリハビリテーションに関する研究を行い、医療技術分野に多くの関わり合いを持つことができたと共に、障害者や高齢者との交わりの場をえました。

平成15年、医療技術短期大学部の4年制化にともない、また全学組織の組み替えもあり、北海道大学大学院農学研究科に転出し、生物生産応用工学部門を開講しました。ここでは食の問題、環境問題と、早急に解決しなければならないテーマに触れることができました。その後、平成19年3月をもって北海道大学を離れ、その1年後に北海道情報大学で教育ならびに研究をすることになり新しい1頁が始まっています。予想通り仕事に追われる毎日ですが、学科の発展を願い、これまでに得た「ノウハウ」を若い方々とお話しし、短い期間ではありますが密度の濃い教育研究を行っていきたく考えています。

※掲載は役職順・50音順です。



こだわり

4月から情報メディア学科に着任した大島直樹です。

私の専門は、「感性情報デザイン」です。

感性情報デザインという言葉をはじめて知った方もいるかと思われますので、紹介させていただきます。

感性情報デザインは、感性情報学を基盤としています。感性情報学は、主観性、多義性、あいまい性、状況依存性といった性質を持つ人々の「感性」を研究の対象とし、脳の活動や視線、呼吸、動作などから得られる生体情報や、アンケートによって得られる評価情報などを考察して、感性の構造やはたらきを解明していく研究分野です。この感性情報学は、それまで医学、心理学、工学、芸術学などと区別されていた研究分野の研究者たちが、協力し合いながら横断的に進めている点が大きな特徴です。

そして、感性情報学で見出された結果を元にして、新たな価値を生み出す活動が感性情報デザインです。デザインとは、モノやコトをつくり出すことが目的なのではなく、新しく作り出したモノゴトに触れた人の生活や行動、考え方を変化させ、QOL(Quality of Life: 生活の質)を高めることが目的といえます。つまり、持つ喜びや驚きといった人々のところを動かす感性の要因を知り、感性をコントロールするモノゴトをつくり出し、人々の生活を豊かにすることが感性情報デザインの役割といえます。

そうした感性情報デザインにおけるキーワードとして、私は「記憶」を挙げています。

感性は、生まれついて持ち得ている要素もありますが、人が経験を通じて蓄積した記憶がもととなって形成される要素も大きな割合を占めます。使い手の経験に則したモノゴトを提案することによって安心感ややすらぎなどを与えられたり、それまで経験したことの新しいモノゴトを提案することによって驚きや好奇心を与えられたりできることから、感性のコントロールとは使い手の記憶を操ることだと考えています。

そうした記憶を操るメディアとして、「ニオイ」に興味を持っています。ニオイを感じ取る嗅覚は、刺激が脳辺縁系に直接的に伝えられ身体の調節に直接的

に関わる感覚であり、記憶と密接な関係を持っています。

そのため、ニオイを操ることによって、人々の記憶＝感性を効果的にコントロールできると考え、その活用場面と手法を模索しています。

そのひとつとして、病院に入院している子どもたちのQOLを高めるデザイン活動であるチャイルド・ライフ・デザインへの展開を模索しています。病気や入院生活によって子どもたちの不安や恐怖心から注意をそらすため、絵本や人形劇などとともに子どもたちが心地よくなるニオイを提供して注意転換の効果を高める試みを計画しています。この試みは、チャイルド・ライフ・デザインの専門家とともに計画を進めており、少しでも元気になる子どもが増えることを望んでいます。

さて、研究について長々と書き綴ってしまったように、興味のあるものについてはとことん追求し、こだわる性分です。そんな私が研究を離れてこだわっているもの、それは「黒」です。服装や持ち物など所有するものを可能な限り黒で揃えていますし、個人的な作品も黒を基調としたものばかりです。とはいえ、仕事としての作品は彩り豊かにつくりますし、教員として学生の皆さんのカラーを引き出していきたいと望んでいます。

それでは、北海道情報大学の黒子として、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



着任にあたって

4月1日付けで医療情報学科に着任いたしました太田榮子です。

平成19年の4月から医療情報学科の非常勤講師として週1回診療報酬請求事務論、レセプト概説などを2学年の前期1講義、後期2講義を受け持ちました。

医療情報学科は、少なくとも5つの資格取得が可能で、しかもこの診療報酬請求事務論は医療情報技師、診療情報管理士、診療報酬請求事務能力検定などの資格試験に共通した知識を効率よく習得できることから、病院の実践と資格取得を目指した体験を生かし、学生へ伝えたい思いで講義に向かいました。

病院勤務との並行で病院の業務はかなり忙しい状況下で講義資料および練習問題などの資料作成は日常業務終了後などで夜中の作業になりました。

私は、本学の非常勤講師として任用されたことを契機に、1つの目標設定をしました。それは講義の結果として医療事務技能審査試験の合格者を本学から何とか出したいという思いと私が、そこまで学生を導くことが可能かという自分への挑戦もありました。

29回の講義のほか夏休みに希望者のみで8回の講義と最後の追い込みとして11月、12月は勤務終了後の夕方から24時まで生徒の希望で試験対策集中講義を学生と心ひとつになって合格を目標に頑張り、10名の合格者が誕生しました。

学生がこういった目標に向かう姿勢は何事にも代えがたく、各教員の方々が講義室を訪れ驚愕された様子でありました。

残念な結果として不合格になった学生から再挑戦して絶対取って見せると私を励ましてくれるまでに成長してくれました。

資格取得を通し、培われた粘り強さ、やればできる自信、精神力など一人一人の頑張りなどを肌で感じた10カ月でありました。

遅れてではありますが再試験に臨み今月末までには合格者が20数名になる予定であります。

今年度の取り組み予定としまして私が担当します医療情報学科の高度医療事務コースの充実を図るため、

HIU医療情報センター(本学国際交流センター内の模擬病院)において医療秘書技能認定、医事オペレータ技能認定などの資格試験に向けた講義を行い、医療事務技能審査試験1級・2級さらにはハイレベルの診療報酬請求事務能力検定試験の取得が可能となるよう学生の指導にあたりたいと考えております。



病院勤務の経験上ですが、職員を採用する管理者の立場からみますと大卒で資格がない場合は書類選考で落とされるケースが多く、複数の資格を持っていないおかつ人間性を審査するといった現実は無視できないと思われま。このようなことから本学で取得可能な多くの資格を持つことが将来の就職活動においても有用になります。

本学は専門大学でしかも情報に強い大学というイメージがあり、情報系のシステムアドミニストレータ、基本情報技術者、医療情報技師の資格は卒業までを目標に1つでも取らせてあげたいことと、将来の就職先として、医療関係職種を希望するのであれば高度医療事務コース(医療事務技能審査試験、医療秘書技能認定試験、医事オペレータ技能認定試験など)と医療情報技師、診療情報管理士などの資格を併せて取得することかと思ひます。

いずれにしても医療情報学科の1期生が22年の春に卒業生が誕生しますことから学生一人一人が希望する就職先に行けるよう教員の一人として今まで歩んできた経験値を生かし学生指導に尽力したいと考えておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



北海道から世界へ

皆様こんにちは!この度、情報メディア学科・教授に就任いたしました島田です。私はこれまではフリーランスの映画監督として、ショートフィルム(短編映画)を中心とした映像作品の企画、制作をしてきました。学生時代は建築を専攻していたのですが、かねてから映像への興味があって、大学院修了後、米国の南カリフォルニア大学(USC)のサマースクールで映画を学びました。USCはジョージルーカスやロバートゼメキスなど有名な映画監督を数多く輩出している大学で、世界中からここへ映画を志す人たちが集まってきます。大学の中には撮影スタジオや編集室、レコーディングルームまであり(なんだか情報大に似ている?)、「ここで頑張れば、ひょっとしたら自分もルーカスのようになれるのでは?」なんて淡い期待と夢が頭をよぎりがむしゃらに映画作りに没頭しました。今思えば、大学が学生に夢を与えられるのは素晴らしいことだと私は思います。

私の専門であるショートフィルムの話をしします。ショートフィルムとは、文字通り短い映画のことで、20~30分くらいのものから、短いものでは1分程度の作品もあります。日本では短編映画というとあまり馴染みがないかもしれませんが、アメリカやヨーロッパでは、ショートフィルムという一つの表現ジャンルが確立されていて、世界には数多くの短編映画祭があります。皆さんもご存じのアカデミー賞や、カンヌ、ベルリンといった有名映画祭にも、実は短編映画の部門があります。こうした短編映画から才能を評価され、長編デビューにつながるケースも多く、ジョージルーカスやスピルバーグ、リュックベッソンといった世界の巨匠監督も、最初はショートフィルムからスタートしています。そのような意味でも、ショートフィルムは若手の映像作家・映画監督にとっての登竜門とされています。

さて、ショートフィルムをご覧になったことがある方はすでにご存知かとは思いますが、このショートフィルムというジャンルは、多くは無名の役者が出演していて、無名の監督が作っています。そしてそうした

作品が(時には学生の作った映画が)、実際にアカデミー賞やカンヌ映画祭などで評価を受けるのです。無名の役者でも、無名の監督でもそんなことが出来る…。

私はいつか、北海道からこうした世界的な映画祭で評価を受ける作品を生み出したいと思っています。そしてそれは決して不可能なことではなく、努力を続ければ道は開かれていると思います。たとえば…、私が高校生のときには、北海道からまさか甲子園の優勝校が出るとは思いませんでした。北海道にプロ野球のチームが出来て、札幌で優勝パレードが行われるなど夢にも思いませんでした。こうした例を目の当たりにすると、頭の中で無理だと思っていることも、やろうと思えば実現出来るんだなと勇気もらいます。

この20年間で私たちと映像メディアをめぐる環境はすっかり変わりました。デジタルビデオカメラがあり、パソコンがあれば動画の編集がすぐに始められます。携帯電話で動画を撮ることも可能です。インターネットを使えば、地球の裏側にいる人に作品を観てもらうこともできます。ハードの環境が整ってきている今、必要なのはソフト、知識と実践です。そしてそれをもっとも実践できる場所は「教育の場」しかありません。その意味で、本学・北海道情報大学には理想的な環境と講師陣、そして理念があると私は確信しています。

目指すのは、先生も生徒も、夢を持って元気に頑張っているような大学。いつの日かここから世界へ羽ばたく人たちが出てくると信じて、そして自分も負けずに羽ばたいていくのだと信じて、学生と、教職員の皆さんと、そして地域の方々と共に頑張っていきたいと思っています。まだまだ分からないことばかりですが、どうぞ今後とも宜しく願い致します。



着任にあたって

今年度、経営情報学部に着任しました遠藤雄一です。ソフトウェア会社で社会人生活をスタートし、その後転職、この3月まで北海道情報専門学校で講師をしていました。ご存じのように、専門学校というところは資格と就職がとても重要なところですので、長らく学生にアドバイスをしてきました。きっと学生のみなさんの力になれることがあると思います。悩んでいることがありましたら、気軽に声をかけてください。

さて、私の関心事について、少しお話したいと思います。博士課程では「小売業におけるCRM戦略」をテーマに研究してきました。CRMとは、“Customer Relationship Management”の略語です。端的に申しますと、顧客との関係を情報通信技術によって管理することです。小売業のみならず、企業にとって、お客様と良好な関係を構築、維持することはとても重要なことです。このようなことにも情報通信技術の利用が確認されます。企業において情報通信技術の利用範囲は益々広がりを見せています。今日の企業では、自社の戦略に適合するように、そして効果が最大化するように考慮することが、最も大切なことといえます。こうした企業と情報通信技術利用の適合性の問題に関心を持っております。

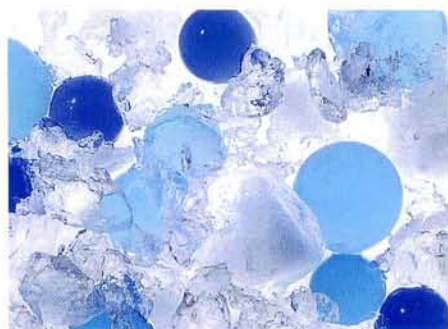
ところが企業を理解することは簡単なことではないのです。一人ひとりの人間の性格が異なるように、企業も多種多様だからです。ノーベル経済学賞を受賞した、かのサイモンは、蟻の行動をもとに人間社会についての示唆を与えています。

すなわち、蟻の様子を上からじっと見つめていると餌や巣という目的地まで、一直線に進むのではなく、右に行ったり、左に行ったり、はたまた後ろに戻ったりと非常に非合理的で、不可解な行動をとっているように

みえる。それは蟻が途中にある障害物のすべてを知っているわけではないからである。蟻は先に何があるのか分からず、困難な事態に出会うたびに、何回となく進路を変えているためにそう見えるのだ…と。

蟻の不可解な行動を理解するためには、蟻が置かれている環境を理解する必要があります。人間も同様です。人間、そして人間が作り出した企業を理解するためには、その行動を見るだけではなく、置かれている環境も見する必要があります。そのためには様々な視点から物事を見ること、そして柔軟に考えることが必要になります。私の講義ではできるだけ、みなさんの知的好奇心を醸成していくような講義にしていきたいと思えます。

それにしても、蟻と比べて人間はどうして先のことばかり考えてしまうのでしょうか。人間は得てして遠回りすること、無駄になることをしたがりません。その結果、後悔することがよくあります。先のことばかり考えず、試行錯誤を重ねながら一緒に学んでいきましょう。



着任にあたって

今年度4月より経営情報学部医療情報学科に着任いたしました田中洋也です。旭川市出身で、大学卒業後から本学着任までの14年間、道内の公立高等学校2校で英語教員として仕事をしてきました。日々、目の前で悩む生徒の学習支援に自分自身も悩み、その解決のため5年前より北海道大学大学院で学びはじめました。現在は、学習者要因・学習方略の研究とその研究に基づく教育実践を志しています。

人は母語(日本人の場合の日本語)の習得に失敗するという事はほとんどありません。母語による言語能力は、誰もが一定レベルまで獲得することが可能な当たり前の能力です。それに対し第二言語は、多くの場合、満足できるレベルまで、その能力を獲得することは困難であり、習得に失敗することが少なくありません。私が大学時代に学んだはずのドイツ語、フランス語は失敗の典型です。

人が第二言語を獲得しようとするとき、その環境(条件)、学ぶ目的、学ぶ前提となる個人の能力・適性、またそれによる学び方は人それぞれです。日本の学校における英語学習の中では、学校の試験のため、単位取得のためという目的しか持っていなければ、英語が使えるようにならないのは当然のことです。中学・高校の6年間での英語の授業時間は、起きて活動している時間のわずか2%ほどしかありません。残りの98%を生まれた時から聞きかじっている日本語だけで過ごしていたら、途中で学び始めた第二言語が2%の時間で満足できるレベルになるはずはありません。授業時間以外にどれだけ時間をかけたか、その中でどのようにその言語と接してきたかで大きな違いがでます。平等に与えられているはずの6年間という時間での英語学習を経験した学生のみなさんの英語力、英語学習に対する思い、大学での目的、学び方も、またそれぞれでしょう。

本来、人は他の人や自分を取り巻く世界との関わりを持ちたいという欲求を持ち、その中で生かされているはずで、言語はその関わりを持つ上で最も重要な手段のひとつです。その言語が母語以外にもあるとい

うことは、自分が存在する世界を拓げるための手段がひとつ増えるということです。国際的な言語の情勢は日々変化するため、ひとつの目安でしかありませんが、英語を母語話者として話す人は約3億7,500万人、公用語



などの第二言語として話す人も約3億7,500万人、外国語として話す人は7億5,000万人以上、西暦2000年時点での世界の英語学習者(同時期に英語を学習している人数)は10億人以上とされています(British Council)。また、世界でインターネット上のウェブページなど電子データとして存在するものの80%以上は英語であると言われています。世界の研究者の3分の2以上は英語で文献を読み書きします。大まかな言い方でしかありませんが、世界の4分の1の人は何らかのレベルの英語を使うことができるそうです。英語をコミュニケーションツールとして用いることで、英語母語話者に限らず、様々な地域の人とのかかわりを身近に感じ、様々な情報・専門知識にアクセスできます。英語を通して対世界、対人との関係性を持つことで、10億人以上の英語学習者の一人である学生のみなさんの可能性も、さらに大きく拓がるものと信じています。

本学では、学生のみなさんの「それぞれ」に少しずつ寄り添いながら、みなさんがその世界と可能性を拓げていくために、人とのかかわりを持つ目的を持った英語学習の支援を、自律と協調による学習をテーマに行っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



南京大学から IT・日本語クラス2期生が本学に編入学

昨年(平成19年)から実施している、中国南京大学と本学との共同事業『IT・日本語クラス』の2期生が、平成20年4月、晴れて本学情報メディア学部3年次に編入学しました。

この共同事業は、南京大学と本学との協定に基づき、南京大学で2年間ITと日本語の基礎を勉強し、その後、本学情報メディア学部3年次に編入学します。

本学で2年間、専門科目を修めて本学の卒業と学士の学位を目指すというものです。

今年の2期生は20名、1期生の11名と合わせて現在31名が在学しています。

5月末には1期生と2期生の親睦を目的に、合同で1泊の宿泊研修を実施しました。

滝野すずらん公園山の家で、スポーツ交流や野外炊事などの共同生活を体験しながら親睦を深めました。

1期生の進路も大学院、日本で就職、中国に帰国して就職するなどほぼ決まり、それぞれが目的に向かって留学生活を送っています。

2期生は日本に来た当初は文化の違い、日本語の困



滝野公園での野外炊事

難さにとまどっていた様子でしたが、今では授業に追われながらも、地元家庭に呼ばれホームステイ体験するなど、少しずつ日本での生活にも慣れてきています。

異文化の他国で頑張っている留学生に、皆様の暖かい支援をお願いいたします。



南京大学 IT日本語クラス 編入学生対面式

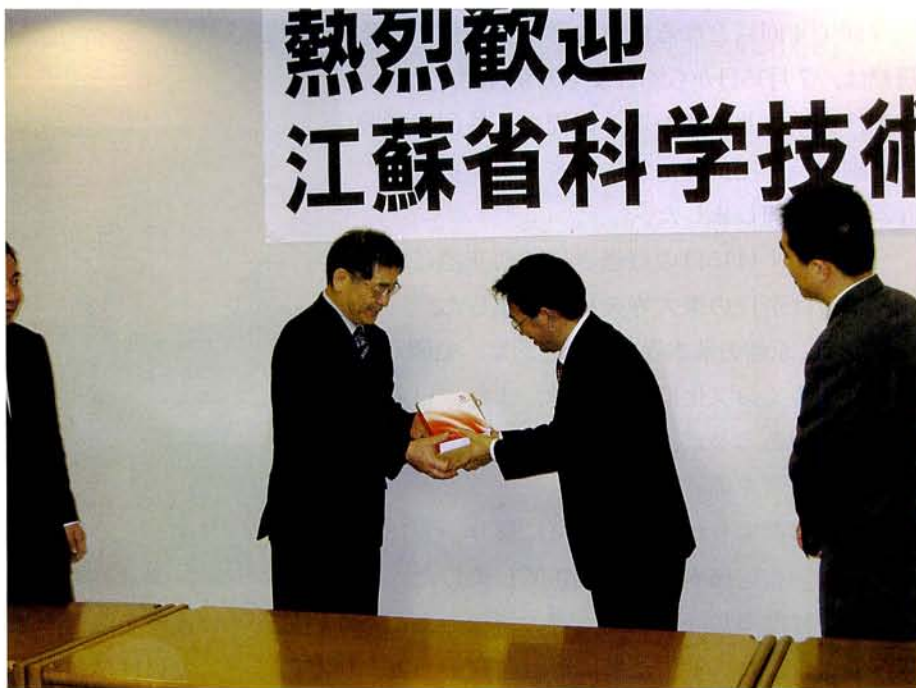
中国・江蘇省科学技術代表団 本学訪問

5月20日(火)、中国・江蘇省科学技術代表団14名が本学を訪問しました。本学の国際交流協定校である南京大学が江蘇省にあり、両大学間の国際交流が盛んなことから、張 桃林 江蘇省副省長を始めとする代表団の訪問が実現しました。表敬訪問では、張副省長から「江蘇省としても、北海道情報大学と南京大学との国際交流をバックアップしていきたい」との挨拶がありました。

代表団14名のうち、8名が江蘇省役人、6名がIT企業の社長、副社長であり、前日の19日(月)に、東京都内のヒルトンホテルにおいて、

日本と中国との経済や貿易関係を発展させるための協力提携交流会を行い、日本のIT企業に対し、中国・江蘇省のソフトウェア及び情報サービス業についてピーアールを行いました。その後、札幌に移動し、

熱烈歓迎 江蘇省科学技術



記念品交換の様子

本学を訪問しました。

代表団の中には、南京大学から潘 金貴教授がメンバーの一員として参加しており、潘教授は、2004年の国際フォーラム開催以来の本学訪問となりました。松尾記念館講堂では、南京大学からの3年次編入学生との懇談も行われました。



留学生との懇談会

南京大学の日本文化研修一行が来学

今回で4回目となる南京大学からの日本文化研修は、7月15日から23日までの9日間、奈良、京都、東京、北海道を巡る行程で、外国語学院汪平副院長を団長に、学生21名、引率者2名、計23名が参加しました。

一行は、7月15日の昼過ぎに関西空港に到着し、午後は奈良の東大寺を見学しました。

翌日は、京都の清水寺、三十三間堂、金閣寺、龍安寺で多くの文化遺産を見学、また、日本の伝統芸能である茶道、琴、雅楽、狂言、日本舞踊、文楽などを鑑賞しました。

17日は京都より新幹線で東京に移り、翌18日は、本学園松尾理事長を表敬訪問しました。学園本部では理事長はじめ関係者の皆様のあたたかい歓迎を受けました。学生たちは自己紹介のあと、日本の文化や印象について各自の感想を發表していました。

午後からは北海道、旭川大雪に移動しました。翌日、旭岳姿見の池付近をハイキングし、午後から望岳台付近を散策、吹上温泉で初めての露天風呂を体験するなど、北海道の雄大な自然に触れました。

20日は富良野のファーム富田でラベンダー畑を見学して、後藤純男美術館に向いました。後藤純男は中国(西安)とも関係の深い画家であることを館長より説明を受け、学生達も興味深く絵画鑑賞をしていました。午後、札幌に移動し夜はJRタワーの展望室より札幌



松尾理事長の歓迎あいさつ

の夜景を楽しみました。

翌日は積丹半島、神威岬、小樽を見学しました。初めて海を目の当りにする学生もおり、感激してカメラのシャッターを押していました。

22日は本学に隣接する北海道情報技術研究所を訪問し、通信衛星やインターネットを活用した遠隔教育の仕組みを見学したり、スタジオでクロマキーの特撮体験などを行いました。

午後は本学に入り、嘉数学長を表敬訪問し、学生たちは強行日程で体的には疲れていたと思いますが、熱心に学長のお話を聴講していました。松尾記念館講堂で本学よさこいチームによる演舞を鑑賞した後、

本学学生達と体育館でスポーツや焼肉パーティで交流を深めていました。

翌23日に新千歳空港から両手で持てないほど多くのお土産を抱えて無事帰国しました。

文化研修最後に提出してもらったアンケートは、『日本の風土、人、文化に直接触れることができ、日本の良さを実感しました。とても有意義な研修でした』といった好意的な意見が多くありました。



本学の松尾記念館前にて

高大連携



調印式

平成18年度から野幌高等学校と高大連携の協定を結び、授業を行っていますが、平成20年度から新たに札幌東商業高等学校と高大連携の協定を締結しました。調印式は、平成20年4月10日(木)本学にて行われました。

情報メディア学部情報メディア学科のコンピュータグラフィックス関係の講義を札幌東商業高等学校の3年生が受講するもので、前期の講義を本学で受講して単位を修得し、その後、本学に入学した場合は、本学卒業単位としても認められることとなっています。

授業は、両校とも基本的に木曜日の4講時に実習室で行います。本学教員のほか、数名のSA(学生アシスタント)がサポートし丁寧に授業を進めていきます。

野幌高等学校は、本年度25名の生徒が本学で、前期



野幌高等学校授業風景

は「コンピュータリテラシー」、後期は「Web技術演習」と「プロジェクト・トライアル」のいずれかを選択して受講します。

「コンピュータリテラシー」では、一般的なコンピュータ利用技術のほかに、LEGOマインドストームを用いたロボット制御の演習なども行います。

札幌東商業高等学校は、本年度40名の生徒が本学で、前期に「プロジェクト・トライアル」を受講します。

この科目では、Adobe Illustratorの基本的な使い方を学ぶとともに、作品(ポスター)の制作を行い、最後に各々の作品のプレゼンテーションを行うことを目標としています。

両校の生徒は皆さん、普段とは違う大学の授業に真剣に取り組んでいます。

高大連携授業は、今後も質量とも充実させてさらなる発展を目指すこととしています。



札幌東商業高等学校授業風景



8回 体育祭

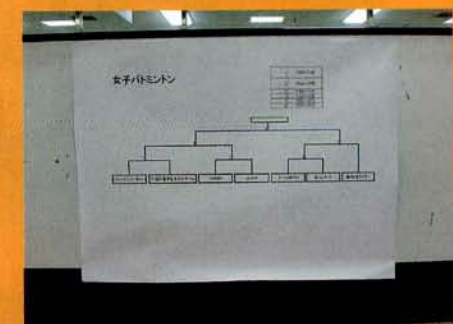
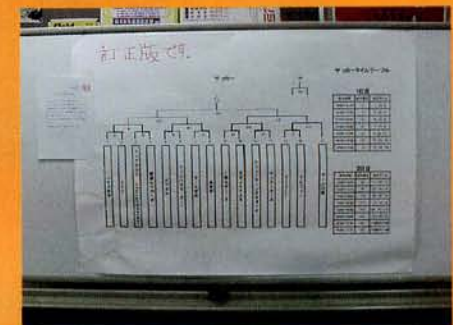
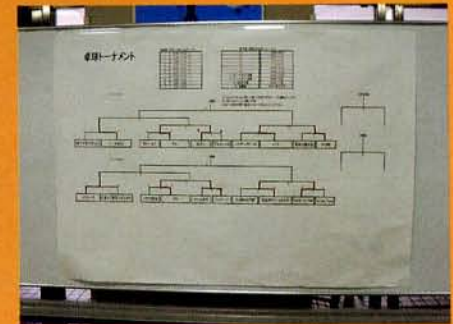
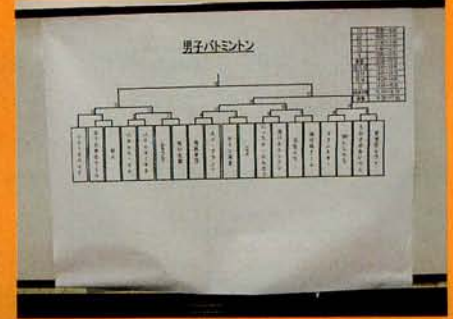
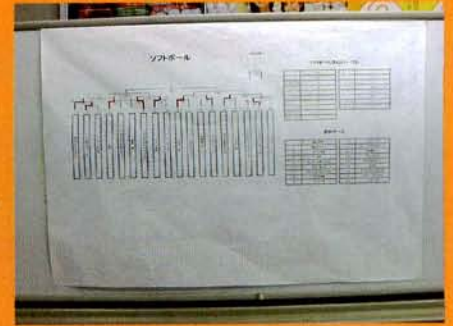
6月18・19日

第18回目を数える体育祭が、6月18・19日の二日間にわたり行われました。サッカーやソフトボール、テニス、バドミントンといった“定番”の種目に加え、今年はダーツなどもあり、参加者もこの日とばかりに汗を流しました。



第18回 体育祭

スタッフたちの戦いもあった...



大成功に終わった体育祭の陰には、文字通り、「陰の戦い」に徹するスタッフの姿がありました。選手と、スタッフと、そして応援してくれたギャラリーの全員が作り上げた体育祭でした。



「海外事情」オリエンテーションを実施して

ゴールデンウィークの合間、5月1日の放課後に、今年度の「海外事情」のオリエンテーションを、国際交流委員会主催で行いました。中国編は毎年オリエンテーションを開催してきましたが、アメリカ編は初めての試みでした。

当日は、113教室で中国編、114教室でアメリカ編を行いました。私は今年度のアメリカ編の引率者ということもあって、アメリカ編の司会を務めました。したがって、ここではおもにアメリカ編のオリエンテーションの内容を紹介させていただきます。

最初に国際交流委員長の原先生のご挨拶があり、「大学生にとっての海外研修は、異文化にふれ自国の文化を顧みる、またとない貴重な機会である」ことを強調してくださいました。次に海外事情ご担当の高野先生が、今年度のアメリカ編の日程と研修の際の諸注意を話してくださいました。

それから、ゲストとして、カリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)の博士課程在学中で、現在北海道でアイヌ民族の伝統漁法の研究調査をなさっているヘザー・スワンソンさんが、UCSCとカリフォルニアの説明を、スライドを用いながら、英語で話されました。この夏カリフォルニアで語学研修をしようと考えている学生にとっては、生の英語と、UCSCやカリフォルニアの魅力にふれることができ、

たいへん興味深いガイダンスであったように思います。

最後に、昨年度の参加者である折笠君と竹嶋君が、スライドを用いながら、「海外事情」で体験したり、感じたことを話しました。「携帯電話は、現地でプリペイド式のものを利用するとよい」等の具体的な話が多く、参加者からの活発な質問にも楽しく答えてくれて好評でした。

全体で1時間ほどのオリエンテーションでしたが、学生と教職員の参加者は、とても楽しんだようでした。

また中国編も、引率の玉置先生や田中英夫先生のお話、また中国南京大学からの二人の留学生の話もあり、たいへん有意義なものになりました。

「海外事情」については、昨年度から「報告会」も開催されるようになりましたので、今年の参加者がどんな経験や感想を話してくれるか、今からとても楽しみです。



国際交流委員：竹内典彦

保護者の会 役員会を開催

平成20年度第1回北海道情報大学保護者の会役員会を5月30日(金)「あおい」において開催いたしました。

最初に嘉数学長から保護者の会に対するお礼を含め挨拶があった後、平成20年度新規役員候補者5名について全員が異議なく承認されました。次いで大学からの現況報告として、大学の質を高めるため、eラーニング推進センター、メディアクリエイティブセンター、バイオ情報解析室、医療情報センターを学内共用教育研究施設として独立させたこと、学生による授業評価をおこなっていること、国際交流として今年度もアメリカカリフォルニア大学、中国南京大学への短期留学を実施すること、本年度南京大

学から23名の留学生が入学したこと及び就職関係として平成19年度卒業生の就職率、平成20年度の就職指導スケジュールについて、学生サポートセンター事務室からは、平成20年度の学生生活指導の行事についての報告がなされました。

役員会終了後の懇親会においては、学生生活や就職状況等に関して率直な話し合いがなされました。

ご出席いただきました役員の皆様には、貴重なご意見等をいただきましたことを感謝いたします。

保護者の皆様には、今後とも本学の充実発展のためにご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

学生サポートセンター

ファイナルコンテスト

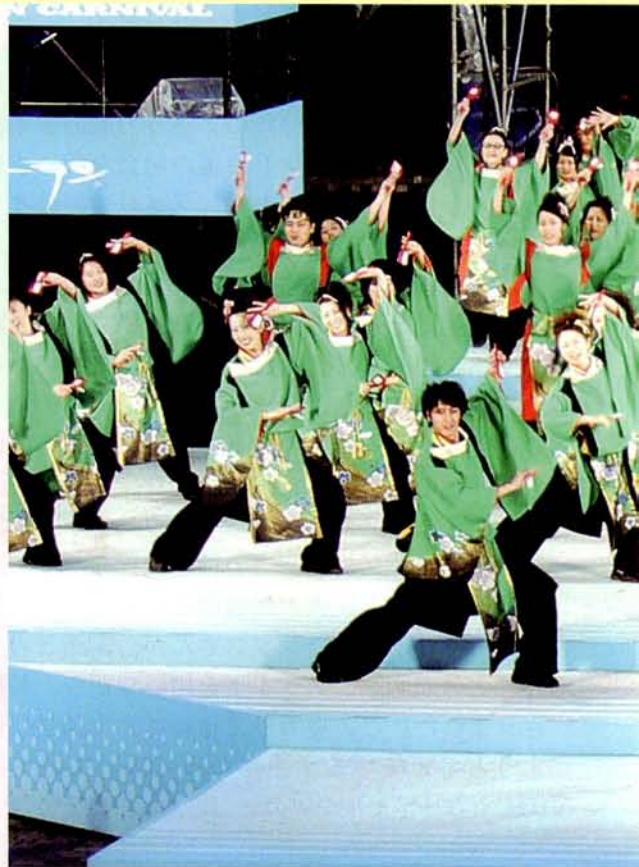
祝・第10位(積丹町賞)受賞

第17回

YOSAKOIソーラン祭り

平成20年6月4日(水)～6月8日(日)

● **ファイナル2年連続出場!!** ●



最後の「決めポーズ」では
観客席からどよめきも――

受賞



今年も熱かったYOSAKOIソーラン祭り

委員長 2年：村上 貴昭

私たち情報大学YOSAKOIソーランサークルが江別まっことええと共に活動して早五年。今年も江別まっことええ&北海道大学チームは、第17回YOSAKOIソーラン祭りに参加してきました。今年も既存の部員数を上回る16名という多くの新生を迎えることができ、総勢30名、昨年の倍近くの人数となりました。

6月6日～8日の期間中に参加となりましたが、初日は生憎の雨に見舞われて少し残念だったのですが、それでも多くの観客が集まってくれていたのが皆自然と笑顔がこぼれ、雨雲を裂く勢いで踊れたので良かったと思います。そして今年も、昨年のファイナル進出に引き続き2年連続ファイナル進出という素晴らしい快挙

を成し遂げることができました。結果は参加チーム300チーム中の10位に当たるソーラン節の故郷、積丹町賞を頂くことができました。昨年と比べれば多少順位は落ちたのですが、それでも、今年もYOSAKOIソーランの頂点を決める舞台上で演舞できたということで素晴らしい結果が残せたと思います。

最高の仲間に出会えたこと、最高の思い出が作れたことに感謝したいです。そして、大学関係者の皆様、本学学生の皆さん、サークルを創設してくれた先輩方、その他応援してくれた皆さんに感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

WEBデザイン コンテスト

8th

募集作品: Web作品(テーマ、フリー、ビギナー)
ポスター作品

締め切り: 2008.9.19

作品提出方法など詳細は、本学教務課前にある募集要項または、

<http://wdc.do-johodai.ac.jp> をご覧ください

※本学学生なら誰でも応募できます

作品募集中!

CHECK!

WDC支援サイト

Webデザインコンテストへの作品の投稿を支援するWebサイトです。

ファイル名チェック、リンク切れチェック、そして、今年から追加されたタグチェック機能により、

コンテスト投稿前に作品をセルフチェックすることができます。

これらの機能は、学生も交えた学内共同研究として開発されました。

(サイト再構築/タグチェック機能開発: 斎藤一ゼミ 石井拓郎)

注目!

タグチェック機能

非推奨タグを使っていないかチェックする機能です。

例えば… (HTML文書内で) fontタグを使った → color : red を使ってみては?
(HTML文書内で) bタグを使った → font-weight : bold を使ってみては?

このように、使用した非推奨タグに対して替わりにどうすればいいかを提示します。

この他にも便利な機能がたくさん!

洞爺湖サミットで 踊ってきました。



情報メディア学科3年 澤口彩

去る2008年7月7日、北海道の地で洞爺湖サミットが開催され、私はYOSAKOIソーランチーム・平岸天神の一員として現地まで行き、踊りを披露してきました。

今回参加したチームは今年度YOSAKOIソーラン祭大賞・平岸天神と、準YOSAKOI大賞・新琴似天舞龍神の2チームです。演舞時間が決められていたため、入場退場の関係もあって新琴似さんとは本番前に一度合同練習を行ったのですが…。そこで聞かされた言葉が

「霧が濃いと中止になる可能性もある」

ウィンザーホテルは高い山の上にあるため、霧が濃い場合は1m先も見えないというのです。しかも舞台横は崖同然。全てに細心の注意をはらって行動をしなければいけませんでした。

いよいよ当日。会場に着くと、さすが山上！と言わんばかりの真っ白な世界！演舞時間が近づいても霧ははれず、まさかの中止…！？

…と、不安でいっぱいだったのですが、話は転々、予定変更なし！とのこと。小雨の中、わざわざ外に出てきて下さった各国首脳陣のみなさんに、無事演舞を観ていただくことができました。真っ白であちらの様子はまったくわかりませんでした。すごく楽しく踊ることができて私自身とても満足です。今後このようなことは絶対はないと思うので、貴重な体験ができてよかったというか、自分のレベルアップにつながったんじゃないかと思えます。



霧がはれていればこんな風に見える予定だったのに…。

学生相談室 について

● 学生相談室は身近な相談相手です ●

皆さんのきょうだいや両親、友達や先輩が悩みごとの相談に乗ってくれるでしょう。それでも解決しないとき・・・

臨床心理士と教職員が、学生生活のさまざまな悩みを一緒に考え、あなたをサポートします。

たとえばこんな悩み・・・

- ◆眠れない、何もやる気がしない。
- ◆友達が作れない。
- ◆勉強のことで困っている。

相談した内容については秘密を守ります。

● 学生相談室の利用方法 ●

- ◆相談希望者は直接学生相談室あるいは相談担当者を訪ねてください。
- ◆相談を継続する場合、2回目以降は時間を予約して頂くことがあります。
- ◆相談室前に置いてある「予約カード」で相談の予約ができます。
- ◆相談室の利用時間は
<http://www.do-johodai.ac.jp/campus/soudan.html>
で確認できます。

● 学生相談室への問い合わせ ●

- ◆学生サポートセンター
TEL (011)385-4416
こちらの電話では、具体的な相談には応じられません。

メディアクリエイティブセンター

メディアクリエイティブセンター(以下MCC)は、メディアデザイン分野におけるプロジェクト型学習(Project Based Learning)を実施するために今年6月に設置されました。(株)北海道情報技術研究所[Hiit]の4階に位置し、ハイスペックなデスクトップPCとノートPCが30台以上並びます。また、様々な創作活動に対応するソフトウェアや、機材も用意されています。

MCCでは学内の研究・開発に加え、学外(企業・市・NPOなど)からデジタル・コンテンツ、WEB、映像などの制作を積極的に受託し、プロジェクト化します。そこに様々な技術を持った学生が集まり、チームを組み、役割分担をしてプロジェクトに向き合います。これは企業でのプロジェクトと変わりありません。チームで創作・制作活動を行い、完成した作品を依頼者に納品します。

プロジェクトを進めていくと様々な壁にぶつかります。スキル。スケジューリング。人間関係。失敗と試行錯誤。壁にぶつかり、それを越えていく。ここがプロジェクト型学習の肝であり、自分が大きく成長する糧になります。

現在、MCCでは既に15件のプロジェクトが進行しています。情報大の学生諸君。是非、MCCを活用してさまざまなプロジェクトにチャレンジしてください。そして、大きくステップアップしてほしいと思います。



共同利用

医療情報センター

医療情報センターは、医療情報処理および診療情報管理技術などを、学生や受講生に覚えてもらうために作られた、実用型バーチャル・ホスピタルです。ここには会計や受付、医事課や診療情報管理課、さらには診察室やバイオ解析室など、まさに病院同様の設備が整えられています。また、設置されている医療情報管理システムは、現在、病院等で使用されているシステムとまったく同じもので、このシステムと種々の医療情報データを

を用いた実習によって、講義室や他の施設では得ることができない成果を身につけることができます。



eラーニング推進センター

平成17年度に採択された文科省の現代GPプロジェクト「ITによるIT人材育成フレームの構築—学習者適応型e-Learningシステムの開発」が平成20年3月に終了しました。本プロジェクトに参加した学生、教職員、SECの皆さんのeラーニングへの熱い思いや、日本eラーニング大賞(総務大臣賞)を受賞した「無限大キャンパス」との連携など、これからのeラーニングの戦略的な活用を目指して、eラーニング推進センター(CED)が開設されました。教育の質を高めていく手段として、eラーニングシステムの活用が有効であることを現代GPプロジェクトで検証できましたので、eラーニングシステムを授業の改善や高大連携の推進、リメディアル教育、資格取得支援などの活用に展開していきたいと考えています。



施設紹介

バイオ情報解析室

医学・医療分野で取り扱う情報として、遺伝子などの文字データ、血液や肝機能などの数値データ、CTやMRIなどの画像データなどがあります。これらの大量で複雑なデータを効率よく解析するためには、情報をまず集積し、目的の情報を迅速に入手できる処理システムが必要です。新設されたバイオ情報解析室は、医療情報センターと連携し、基礎医学から臨床医学に至るまでの幅広い領域の情報の一元化とデータ解析のためのソフトを導入しています。本学の研究・教育の発展に寄与することは勿論、学内外の医学・医療分野の研究推進施設として役割を担うことに多くの研究者が期待を寄せています。



解析のためのソフトを導入しています。本学の研究・教育の発展に寄与することは勿論、学内外の医学・医療分野の研究推進施設として役割を担うことに多くの研究者が期待を寄せています。

今どきの就職活動について

「就職活動は4年生になってから」そう思っている人はいませんか？ 最近の就職活動は早期化しています。1996年に就職協定が廃止されてから、その傾向はますます強まっていると言えるでしょう。現在の就職活動は以下のスケジュールに示すとおり、3年生からの就職活動は当たり前、しかも3年生になった時点ですぐに準備を始めないと出遅れるという状況です。なんと準備期間を含めると一年以上にわたる長期戦を覚悟しなければなりません。

ところでエントリーシート、グループディスカッション、CAB、SPI、Webテスト、これらの言葉をご存知ですか？これらは全て就職活動中に出てくる言葉です。今や採用試験は一昔前と比べると多種多様、あらかじめ準備をしておかないと内定はなかなかもらえません。本学では、就職活動のノウハウを教えるため3年生の5月からキャリアサポートというガイダンスを行っています。まずはこのキャリアサポートに出席して、就

職活動の準備を行い、それから書類選考、筆記試験、面接試験という本番の就職活動に入っていくのが一番良い方法です。就職活動は皆さんの人生を決める一大事、悔いを残すことの無いよう早め早めの準備をおきましょう。



キャリアサポートの様子

就職活動スケジュール

3年生							4年生					
8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
キャリアサポート(自己分析、企業研究、筆記試験対策等)												
		エントリー										
						企業説明会						
							筆記試験、面接試験					
								内定				

※このスケジュールは北海道における民間企業受験の一般的な傾向として示しています。医療機関の試験等はこれより半年以上遅いと考えてください。

キャリアガイダンス講座・第1回 「社会へのアプローチ ～先輩からのアドバイス～」

7月4日(金)午後4時15分から、大講堂で情報大学卒業生による講話が行われた。

情報学科第1期生の折井信二氏と宮崎恒充(のぶみつ)氏、情報学科2期生の村上希(のぞみ)氏の御三方である。

トップバッターの折井信二氏は、社会人になるために必要な「意識」について語った。まず氏は様々な業務に携わった経験から、コミュニケーションの取り方の大切さを述べられた。自分の考えを表現でき、相手の意見を聞くことができること、そのためには大学だけでなく、学外や年齢の違う人とのつきあいも大事にし、自分という人間の幅を広げ、「視野」を広げることの大切さを語った。

そして仕事を成し遂げていく上で、「責任感」が原点であり、それが「信頼」を呼び寄せ、結局は「自分に仕事を呼ぶことになる」のだということを力説された。また大学時代に大切なことは、「何かこれはやり遂げた」と言えるものを作るのが大切であるとも語られた。

宮崎氏はある種の「カルチャーショック」を受けたことから語り始める。つまり、故郷のむかわ町から富山県の砺波市に職場を変えた経験から、「本音」と「たてまえ」の使い分けなど、住んでいる地域が違えば、ものの見方も違ってくることに気づき、そこから大学だけでなく、自分と異なる分野の人との交流の必要性に言及された。つまり、折井氏も語っていたが、自分

が馴染んでいる生活圏とは別の世界に接触することで、「視野」を広げることの大切さを述べておられた。また様々な仕事をしてきた経験から、不得意なことにも興味をもち、基礎的なことをきちんとやることの大切さを説かれた。

学生時代を有意義にすることとしては、早い段階から、人生の目標や目指すものを見つけることの有利さについて述べられた。

村上氏は学生生活の思い出話から始める。先輩は1期生しかいなかったため、体育大会の実行委員にしても、卒業アルバム制作の実行委員にしても、なにもかも自分たちで取り組まなければならなかったこと、しかし常に「前向き」で取り組んだことを語られた。

次にアルバイトからも多くのことを学んだとのことである。例えば、「挨拶」や「振る舞い」がコミュニケーションの大切な要素であり、これがきちんとできることで、社会の評価も違ってくると語り、更に親への感謝や周りの人への感謝の気持ちをもつことの大切さも、そこから学んだと語られた。

講話が終わった後、学生や司会の関根先生から幾つか質問があった。人生と社会について考える有意義な時間を過ごさせていただいた御三方に感謝申し上げ、本年度第1回目の「キャリアガイダンス」の報告を終わりたい。





本ゼミでは人工知能や教育システム(e-Learning)をテーマとした研究を行っています。人工知能は人間と同じように考えることのできる機械を作り出す研究分野ですが、まだそのような機械は実現されておらず未完成な研究分野と言えますが、そのぶん夢のあるテーマだと思います。また、人工知能の研究は知能を実現する論理的な研究テーマだけでなく非常に幅の広いテーマを扱います。人間が普段使

っている言葉を処理する言語処理などはもちろん、人工知能を3D仮想空間に実体化するなどのマルチメディア技術や、コンピュータを少しでも賢く使いがっての良い物にするための様々な工夫についても研究します。

本ゼミには、人工知能に興味を持った学生が多数集っており研究を行っています。3年ゼミではJava言語やセマンティックウェブなどの技術的な勉強を行い、4年ゼミでテーマを決めて研究を行います。人工知能自体が幅広い研究テーマを含む分野なので卒論のテーマも様々ですが、中でも人工知能技術やマルチメディアを用いた教育システムや電子教材の作成に力を入れています。本ゼミでは人工知能の論理的な知識や技術を学ぶだけでなく、実際に知識・技術を活用したプログラムや電子教材を作成することを課題としています。最終成果物を完成させるために自分で計画を立てることや、頭でわかっているだけでなく、概念を実現するスキルを身につけることができるよう頑張ってもらっています。

ゼミ紹介

本ゼミのキーワードは、「感性」です。感性という個々人で異なるフィルターを通じて、新しいモノゴトをつくり出す活動をしています。

現在のメンバーは、3年生の8人です。各自が掲げるテーマは、「快眠を誘う照明器具」、「オノマトペを強調したお菓子のパッケージデザイン」、「チャイルドライフデザインの考え方をを用いた医療関係者が人形劇を演じるための支援ツール」、「さまざまな素材と形状による編み物の可能性探求」、「身体障害者野球で使用する用具のデザイン」、「入院中の子どもたちが元気になる香り探し」、「陶芸による生活用具の置き換え」、「新しい使い方ができる椅子のデザイン」とバラエティに富んでいます。

ゼミの流れは、感性の赴くテーマを取り上げ、様々な視点から調査し、各自の考察を経て論文にまとめてもらいます。この論文は「考え方の設計図」であり制作時の迷いや考えのブレをなくすため、必ず書いてもらいます。そして論文を基に、他者の感性を刺激するモノゴトのデザインングに取り組んでももらいます。毎週開講しているゼミでは、1週間の進捗状態をゼミ生全員に発表してもらいます。

各自の発表後は参加者全員でコメントし、担当教員が課題を提示します。提示する課題は簡単に解決できるものだけではないため、悩み思案することが多いようです。そのようなときは、合い言葉である「なにくそ精神」を忘れずに、できることとやらなくてはならないことを、相談を交えながら自ら判断しコントロールしてもらっています。

こうした活動を通じて、ゼミ全体で感性を磨き合っています。



卓球部



◆部長から

私たち卓球部は、現在男子11名・女子1名で活動しています。北海道の大学リーグでは4部中4部と弱小ではありますが、秋には3部昇格を目指して、日々練習に励んでいます！練習では他の大学との交友関係を生かし、時々合同練習や練習試合も行っているため、親交を大学内だけではなく他大学まで広げることが出来ます。その他、卓球部では部活動以外にも様々なイベントが日々、行われております。大きなものでは新入生歓迎会・追いコンパ、小さなものでは部活後の食事会、長期休暇には外で焼肉や忘年会なども…

卓球部は先輩後輩関係なく、仲が良いのが特徴です！

卓球部部長 医療情報学科3年 成澤ユキ



普段は明るく楽しく！な練習を行っていますが、大会前になると皆ちよこっと本気モードに入ります。大会前は各自調整を行い試合に臨む、という形を取っているため個々それぞれの方法で頑張っています。試合の結果によっては自分のやり方を見直したり、伸ばすポイントを見付たりと様々ですが、自ら考え行動することで選手としても人間としても成長することが狙いでもあります。

◆新入部員から

卓球部は先輩方も優しく、とても親しみやすい部活です。練習もほぼ毎日あり、とても明るい雰囲気です。練習も毎日あります。まだまだ力不足ですが、これからの練習を大切にし、力をつけて、大会で好成績を残せるよう、日々努力していこうと思っています！

先端経営学科1年 森山裕也

最初に卓球部に入った時は先輩方に警戒されている感じでしたが、直ぐに皆と仲良くなりました。部活はいつも楽しく先輩方と練習しています。勉強の事でも優しく相談にのってくれます。

先端経営学科1年 山田健太

新入部員 募集中!

詳しくは部室棟201号室まで

平成20年度 北海道情報大学 公開講座開始

本年度も本学主催の市民向け公開講座を実施しております。

今年はコンピュータリテラシ関連の中級講座以上は有料講座となっております。

本学在学学生・卒業生・ご父兄の方もご参加いただけますので、興味のある方は、本学教務課までお問い合わせ

わけしてください。皆様のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ・申込先】 北海道情報大学 教務課

- ・電話 : 011-385-4427 (公開講座専用)
- ・ファックス : 011-384-0134
- ・e-mail : kikaku@do-johodai.ac.jp

No.	講座・イベント名	回数	日程	時間	対象	定員	場所	講師	参加費
1	哲学と文学における人間本性論	1	4月20日(日)	14:00 ~15:30	一般	30名	札幌サテライト	本学准教授 三浦洋	無料
2	株式投資戦略 春コース	4	5月12日・19日・26日 ・6月2日(毎週月)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 玉山和夫	無料
3	Linuxサーバー管理者養成~UNIX文化の継承~	4	5月15日・22日・29日 ・6月5日(毎週木)	19:00 ~20:30	一般・35歳以下、Linuxサーバ管理予定者対象	5名	本学ゼミ室11	本学准教授 広奥暢	6000円
4	体験! デジタルビデオ編集	8	5月17日・24日・31日 ・6月7日・14日・21日 ・28日・7月5日(毎週土)	9:00 ~12:00	一般	20名	本学117教室 画像メディア 実習室	本学准教授 向田茂	無料
5	非嫡出子の相続分に関する議論	1	5月18日(日)	14:00 ~15:30	一般	40名	札幌サテライト	本学講師 関根洋	無料
6	健康シリーズ高齢社会と医療第1回肥満・糖尿病の治療と予防(Ⅰ)	1	5月20日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 西平順	無料
7	地域学講座「ふるさと江別の歴史と文化・再発見」	4	6月7日・14日・21日・28日(毎週土) ※6月7日のみバスツアー	14:00 ~15:30	一般	40名	本学115教室	本学副学長 原暉之 本学教授 福島吉春 ・平子(広瀬)玲子 本学准教授 安田光孝	無料
8	e-ビジネス閑話(1)	1	6月10日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 中村忠之	無料
9	初めてのデジタルカメラ 春コース	1	6月15日(日)	14:00 ~16:00	一般	20名	札幌サテライト	本学非常勤講師 北島優	無料
10	マーケティングを学ぼう(1)	1	6月24日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	本学115教室	本学准教授 坂本英樹	無料
11	フォトショップ始めの一步 入門編	3	7月3日・10日・17日 (毎週木)	18:30 ~20:00	一般	20名	本学実習室1	本学非常勤講師 北島優	無料
12	e-ビジネス閑話(2)	1	7月8日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 中村忠之	無料
13	コンピュータで暑中見舞いを作ろう	2	7月12日(土)・13日(日)	13:00 ~16:00	一般	20名	札幌サテライト	本学職員 吉村美穂	無料
14	マーケティングを学ぼう(2)	1	7月15日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	本学115教室	本学准教授 坂本英樹	無料
15	健康シリーズ高齢社会と医療第2回肥満・糖尿病の治療と予防(Ⅱ)	1	7月22日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学准教授 西平順	無料
16	Excel初級講座	3	7月29日(火)・30日(水) ・31日(木)	13:30 ~15:30	一般	20名	本学実習室2	本学准教授 広奥暢 本学非常勤講師 北島優	無料
17	データベースの基礎	2	8月2日(土)・3日(日)	9:30 ~12:30	高校教諭・一般	20名	本学実習室2	本学准教授 齋藤康彦	無料
18	夏休み自由研究教室 君も映画監督-体験ビデオ編集-	3	8月4日(月)・5日(火)・6日(水)	9:00 ~16:00	小学生・中学生	10名	本学画像メディア実習室	本学准教授 向田茂	無料
19	夏休み自由研究教室 ~ロボットで理科を学ぼう~	1	8月9日(土)	13:00 ~18:00	小学校高学年~中学生までの親子	30組(約60名)	本学204教室 LLメディア教室	本学講師 棚橋二朗	無料

No.	講座・イベント名	回数	日程	時間	対象	定員	場所	講師	参加費
20	会社のホームページを見直そう!	2	8月26日(火)・8月28日(木)	19:00 ~20:30	プロ向け(企業等ホームページ管理担当者) ※一般の方の受講も可能です	20名	本学画像メディア実習室	本学准教授 安田光孝	無料
21	ゆっくりのんびりWORDに挑戦	5	9月1日(月)・2日(火) ・3日(水)・4日(木) ・5日(金)	13:30 ~15:30	一般	20名	本学実習室1	本学職員 吉村美穂	無料
22	プログラミング入門 ~JavaScriptを通して~	3	9月6日・13日・20日 (毎週土)	10:00 ~12:30	高校生	20名	札幌サテライト	本学講師 柳信一	無料
23	初めてのデジタルカメラ秋コース	1	9月7日(日)	14:00 ~16:00	一般	20名	札幌サテライト	本学非常勤講師 北島優	無料
24	健康シリーズ高齢社会と医療第3回高齢者と地域医療(1)	1	9月16日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 西平順	無料
25	脱初級! Word&Excelへ使える機能の紹介~	2	9月18日・25日(毎週木)	19:00 ~20:30	一般	20名	本学実習室1	本学准教授 広奥暢 本学非常勤講師 北島優	1000円
26	楽しい初級中国語会話	10	9月29日・10月6日・20日・27日 ・11月10日・17日・12月1日 ・8日・15日・22日(毎週月)	18:00 ~19:30	一般	20名	本学113教室	本学教授 田中英夫	無料
27	e-ビジネス閑話(3)	1	9月30日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 中村忠之	無料
28	レベルアップ! フォトショップ中級編	3	10月2日・9日・16日(毎週木)	18:30 ~20:00	一般	20名	本学実習室1	本学非常勤講師 北島優	1500円
29	株式投資戦略 秋コース	4	10月6日・20日・27日・11月10日(毎週月)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 玉山和夫	無料
30	ポータルサイトクリエイター育成講座	3	10月11日・18日・25日 (毎週土)	13:00 ~16:00	高校生	20名	本学実習室2	本学准教授 向田茂・ 中島潤・長尾光悦・ 斎藤一	無料
31	マーケティングを学ぼう(3)	1	10月14日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	本学115教室	本学准教授 坂本英樹	無料
32	中級者向け ひとつ上をいく Home Pageの作り方 ~XHTMLとCSS~	4	10月23日・30日・11月6日 ・13日(毎週木)	19:00 ~20:30	一般	20名	本学実習室1	本学准教授 広奥暢 本学非常勤講師 北島優	2000円
33	e-ビジネス閑話(4)	1	10月28日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 中村忠之	無料
34	マーケティングを学ぼう(4)	1	11月11日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	本学115教室	本学准教授 坂本英樹	無料
35	スポーツの科学と実践	1	11月16日(日)	14:00 ~15:30	一般	30名	札幌サテライト	本学准教授 鈴木健治	無料
36	健康シリーズ高齢社会と医療第4回高齢者と地域医療(II)	1	11月18日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 西平順	無料
37	コンピュータで年賀状を作ろうAコース	2	11月29日(土)・30日(日)	14:00 ~16:30	一般	20名	札幌サテライト	本学職員 吉村美穂	無料
38	コンピュータで年賀状を作ろうBコース	2	12月4日(木)・5日(金)	18:00 ~20:30	一般	30名	本学実習室1	本学職員 吉村美穂	無料
39	コンピュータで年賀状を作ろうCコース	2	12月11日(木)・12日(金)	14:00 ~16:30	一般	20名	札幌サテライト	本学職員 吉村美穂	無料
40	タバコと疾病	1	12月18日(木)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 中林秀和	無料
41	健康シリーズ高齢社会と医療第5回医療制度と介護制度	1	平成21年1月20日(火)	18:00 ~19:30	一般	40名	札幌サテライト	本学教授 西平順	無料
42	数学を楽しく	3	平成21年2月10日・17日・24日(毎週火)	16:00 ~17:00	一般	20名	札幌サテライト	本学教授 松井伸也	無料
43	ギリシャ数学概説	1	平成21年2月19日(木)	14:30 ~16:00	一般	30名	本学115教室	本学准教授 森山洋一	無料

学校法人 電子開発学園 平成19年度決算の概要

平成19年度決算が評議員会ならびに理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせ致します。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「消費収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

消費収入の部では、大学の学生寮増築による補助活動収入(事業収入)、大学の受託研究による受託事業収入(事業収入)及び有価証券購入による受取利息の増加等がありましたが、学生生徒等納付金、国庫補助金、専門学校の地方公共団体補助金等の減少等により帰属収入合計は前年比45百万円減少し、3,748百万円となりました。基本金組入額合計は、大学の学生寮増築工事、大学の医療情報学科実験室用等の機器備品の整備、専門学校の衛星教室用の機器備品の入替え等を実施し、前年比274百万円減少の231百万円となり、帰属収入合計から基本金組入額合計を差引いた消費収入の部合計は前年比229百万円増加し、3,517百万円となりました。

消費支出の部では、人件費は、大学教員の諸手当の

見直し、削減等により前年比15百万円減少し、1,673百万円となりました。教育研究経費では、大学の受託研究用消耗品等の増加、前年度の大学の国際交流センターの保全工事等の完了による修繕費の減少等により、前年比34百万円の増加で、1,415百万円となりました。管理経費では、前年度の大学の国際交流センターの保全工事の完了による修繕費の減少、大学の学生寮増築に対する経費の補助活動収入原価等の増加で、前年比22百万円減少し、587百万円となり、消費支出の部合計は前年比1百万増加の3,716百万円となりました。

これらの結果、当年度消費支出超過額は前年比227百万円減少の199百万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は前年比199百万円減少の970百万円となりました。

少子化による大学全入時代を迎え、国公立大学、私立・市立大学は生き残りをかけて、学部・学科の新設、教育内容の整備、受験体制の整備等、大学の改革に取り組んでおります。

健全な財務体質を維持することは厳しい環境となっており、今後も教職員のより一層の努力が必要です。

資金収支計算書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

収入の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,196,590,000	3,197,760,039	△ 1,170,039
手数料収入	33,047,000	31,186,460	1,860,540
寄付金収入	2,004,000	2,004,468	△ 468
補助金収入	341,269,000	319,404,933	21,864,067
国庫補助金収入	314,633,000	292,758,000	21,875,000
地方公共団体補助金収入	26,636,000	26,637,278	△ 1,278
その他の補助金収入	0	9,655	△ 9,655
資産運用収入	78,145,000	84,142,550	△ 5,997,550
資産売却収入	400,000,000	400,000,000	0
事業収入	88,931,000	89,088,595	△ 157,595
雑収入	23,525,000	23,669,152	△ 144,152
前受金収入	1,609,059,000	1,419,662,712	189,396,288
その他の収入	98,176,000	67,034,091	31,141,909
資金収入調整勘定	△ 1,491,578,000	△ 1,504,452,150	12,874,150
前年度繰越支払資金	3,889,714,000	3,889,714,598	△ 598
収入の部合計	8,268,882,000	8,019,215,448	249,666,552

支出の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,690,421,000	1,687,539,118	2,881,882
教育研究経費支出	1,217,556,000	1,180,938,173	36,617,827
管理経費支出	556,666,000	558,146,870	△ 1,480,870
借入金等利息支出	2,294,000	2,293,434	566
借入金等返済支出	142,690,000	142,690,000	0
施設関係支出	160,499,000	160,092,561	406,439
設備関係支出	53,671,000	56,817,740	△ 3,146,740
資産運用支出	1,203,311,000	1,204,398,936	△ 1,087,936
その他の支出	469,089,000	439,612,114	29,476,886
資金支出調整勘定	△ 319,246,000	△ 381,504,170	62,258,170
次年度繰越支払資金	3,091,931,000	2,968,190,672	123,740,328
支出の部合計	8,268,882,000	8,019,215,448	249,666,552

消費収支計算書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

消費収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,196,590,000	3,197,760,039	△ 1,170,039
手数料	33,047,000	31,186,460	1,860,540
寄付金	2,388,000	2,789,889	△ 401,889
補助金	341,269,000	319,404,933	21,864,067
国庫補助金	314,633,000	292,758,000	21,875,000
地方公共団体補助金	26,636,000	26,637,278	△ 1,278
その他の補助金	0	9,655	△ 9,655
資産運用収入	78,145,000	84,142,550	△ 5,997,550
事業収入	88,931,000	89,088,595	△ 157,595
雑収入	24,783,000	23,669,152	1,113,848
帰属収入合計	3,765,153,000	3,748,041,618	17,111,382
基本金組入額合計	△ 343,874,000	△ 231,026,078	△ 112,847,922
消費収入の部合計	3,421,279,000	3,517,015,540	△ 95,736,540

消費支出の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,677,247,000	1,673,887,927	3,359,073
教育研究経費	1,446,069,000	1,415,354,706	30,714,294
管理経費	598,962,000	587,498,929	11,463,071
借入金等利息	2,294,000	2,293,434	566
資産処分差額	4,203,000	7,682,916	△ 3,479,916
徴収不能引当金繰入額	6,431,000	9,825,000	△ 3,394,000
徴収不能額	21,791,000	20,107,000	1,684,000
消費支出の部合計	3,756,997,000	3,716,649,912	40,347,088
当年度消費支出超過額	335,718,000	199,634,372	
前年度繰越消費収入超過額	1,169,935,000	1,169,935,239	
基本金取崩額	3,702,000	0	
翌年度繰越消費収入超過額	837,919,000	970,300,867	

貸借対照表

平成20年3月31日

資産の部

(単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,745,748,576	9,008,922,592	736,825,984
有形固定資産	6,716,206,288	6,768,979,591	△ 52,773,303
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	4,265,031,326	4,270,980,144	△ 5,948,818
その他の有形固定資産	725,658,813	772,483,298	△ 46,824,485
その他の固定資産	3,029,542,288	2,239,943,001	789,599,287
流動資産	3,064,893,180	3,952,404,131	△ 887,510,951
現金預金	2,968,190,672	3,889,714,598	△ 921,523,926
その他の流動資産	96,702,508	62,689,533	34,012,975
資産の部合計	12,810,641,756	12,961,326,723	△ 150,684,967

負債の部

(単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	137,965,888	178,647,079	△ 40,681,191
長期借入金	68,670,000	95,700,000	△ 27,030,000
退職給与引当金	69,295,888	82,947,079	△ 13,651,191
流動負債	1,832,743,937	1,974,139,419	△ 141,395,482
短期借入金	27,030,000	142,690,000	△ 115,660,000
その他の流動負債	1,805,713,937	1,831,449,419	△ 25,735,482
負債の部合計	1,970,709,825	2,152,786,498	△ 182,076,673

基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	9,588,631,064	9,365,604,986	223,026,078
第4号基本金	281,000,000	273,000,000	8,000,000
基本金の部合計	9,869,631,064	9,638,604,986	231,026,078

消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	970,300,867	1,169,935,239	△ 199,634,372
消費収支差額の部合計	970,300,867	1,169,935,239	△ 199,634,372
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,810,641,756	12,961,326,723	△ 150,684,967

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

<教員> (4月1日付)

就任	情報メディア学部長	中岡快二郎
	研究科長	長井 敏行
	学生部長	松井 伸也
	教務部長	富士 隆
	図書館長	立花 峰夫
	就職部長	中村 忠之
	先端経営学科主任	福島 吉春
	医療情報学科主任	中林 秀和
採用	特任准教授	石井 勝
	教授	和田 龍彦
	准教授	太田 榮子
	准教授	大島 直樹
	准教授	島田 英二
	講師	遠藤 雄一
	講師	田中 洋也
昇任	教授	竹内 典彦
	准教授	小西 二郎

<職員> (4月1日付)

就任	事務局次長	近藤 始
	学生サポートセンター事務室長	田中 正喜
	広報室顧問	佐々木 美喜雄
採用	学生サポートセンター事務室係長(外国人留学生担当)	森 一峰

(5月31日付)

退職	教務課教務係主任	佐藤 正英
(6月1日付)	配置換え 教務課教務係主任	西部 大嗣
(7月1日付)	兼務 事務局副事務局長	近藤 始

◆◆ 主要行事(4月1日~7月20日) ◆◆

◇法人本部◇

- 4月24日 労使協議会
- 5月12日 北海道人事委員会事務局「給与調査」
- 19日~23日 監査法人トーマツ「平成19年度決算監査」
- 22日 評議員会・理事会

◇大学◇

- 4月 4日 入学式
- 4日 南京大学 院務委員会主任 他1名
- 6日~7日 新入生宿泊研修
- 10日 札幌東商業高等学校との高大連携調印式
- 11日 経営情報学部教授会
- 14日 前期開講
- 18日 情報メディア学部教授会
- 25日 全学教授会
- 5月 7日 創立記念日振替休日
- 16日 経営情報学部教授会
- 20日 中国江蘇省科学技術代表団(14名)
- 23日 情報メディア学部教授会
- 30日 全学教授会
- 学内共同教育研究施設説明・見学会
- 6月 6日 学内共同研究成果発表会
- 10日 創立記念日
- 13日 経営情報学部教授会
- 20日 情報メディア学部教授会
- 21日~22日 体育祭
- 27日 全学教授会
- 7月11日 経営情報学部教授会
- 15日~23日 南京大学日本文化研修
- 18日 情報メディア学部教授会
- 18日 タイ ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校一行(22名)

◇大学院◇

- 4月 4日 研究科委員会
- 15日 大学院特別科目等履修生説明会
- 19日 大学院教育センター長推薦入学試験
- 21日~23日 修士論文及び特定課題研究計画発表会
- 24日 e-ラーニングシステムの開発・実証実験成果報告会
- 25日 研究科委員会
- 5月24日 大学院推薦入学試験
- 7月 4日 研究科委員会

◇通信教育部◇

- 4月23日 名古屋教育センター 大学見学
- 6月 6日~ 8日 前期地方スクーリング(1)
- 16日~23日 前期レポート提出期間

- 27日~29日 前期地方スクーリング(2)
- 7月14日 前期衛星メディア授業科目試験

◆◆ 広報活動 ◆◆

<通信教育部 入学説明会:本学独自>

7月:1会場(福岡)

<進学相談会>

- 4月:北海道 9会場(岩見沢、小樽、室蘭、苫小牧、札幌、帯広、釧路、北見、旭川)
- 埼玉県 1会場(大宮)
- 神奈川県 1会場(横浜)
- 5月:北海道 10会場(枝幸、紋別、稚内、函館、北見、札幌(2)、釧路、帯広、旭川)
- 青森県 3会場(八戸、青森、弘前)
- 岩手県 1会場(盛岡)
- 秋田県 1会場(秋田)
- 千葉県 1会場(千葉)
- 埼玉県 1会場(さいたま)
- 6月:北海道 18会場(函館(2)、稚内、旭川、北見、釧路、帯広、札幌(2)、中標津、根室、八雲、浦河、小樽、苫小牧、室蘭、名寄、羽幌)
- 青森県 2会場(青森(2))
- 岩手県 1会場(盛岡)
- 新潟県 1会場(新潟)
- 7月:東京都 1会場(錦糸町)

<高校内ガイダンス>

- 4月:北海道 3校(深川東高校、札幌大谷高校、千歳北陽高校)
- 東京都 1校(杉並学院高校)
- 神奈川県 1校(横浜創学館高校)
- 5月:北海道 8校(稚内商工高校、下川商業高校、穂別高校、札幌真栄高校、札幌創成高校、滝川西高校、札幌東豊高校、仁木商業高校)
- 青森県 1校(青森商業高校)
- 埼玉県 2校(東野高校、細田学園高校)
- 東京都 3校(東京実業高校、豊南高校、関東第一高校)
- 神奈川県 3校(藤沢翔陵高校、武相高校、横浜清風高校)
- 6月:北海道 22校(札幌北斗高校、帯広大谷高校、札幌厚別高校、札幌南陵高校、静内高校、札幌稲雲高校、札幌龍谷学園高校、余市高校、札幌光星高校、札幌静修高校、旭川竜谷高校、札幌北陵高校、駒沢大学附属岩見沢高校、札幌丘珠高校、檜山北高校、倶知安高校、当別高校、北広島西高校、武修館高校、美幌農業高校、クラーク記念国際高校(大通キャンパス)、北海学園札幌高校)
- 埼玉県 4校(小松原高校、昌平高校、武蔵越生高校、埼玉栄高校)
- 千葉県 2校(敬愛学園高校、千葉明德高校)
- 東京都 1校(昭和第一高校)
- 神奈川県 2校(相洋高校、向上高校)
- 7月:北海道 4校(北海高校、クラーク記念国際高校(本校)、旭川大学高校、北海道栄高校)
- 埼玉県 2校(浦和学院高校、花咲徳栄高校)
- 東京都 1校(杉並学院高校)

<高校訪問>

- 4月:北海道64校、栃木県1校、埼玉県4校、千葉県1校、東京都6校、神奈川県3校
- 5月:北海道225校、青森31校、岩手県32校、群馬県1校、埼玉県8校、千葉県4校、東京都8校、神奈川県7校
- 6月:北海道76校、秋田県31校、茨城県1校、千葉県3校、東京都4校
- 7月:北海道267校、青森県31校、岩手県31校、群馬県1校、埼玉県3校、千葉県5校、東京都7校、神奈川県1校

<AO入試・奨学金説明会>

6月 1日(日) 本学

<オープンキャンパス>

- 4月20日(日) 本学
- 5月24日(土) 北見、釧路、函館
- 25日(日) 旭川、帯広
- 6月29日(日) 本学

<教員対象大学説明会>

6月27日(金) 東京

<広報室来学者>

- 5月13日(火) 白老東高校(大学見学:学生1名)
- 6月12日(木) 旭川竜谷高校(大学見学:学生9名)
- 大樹高校(大学見学:学生1名)
- 13日(金) 旭川藤女子高校(大学見学:学生18名、教員1名)
- 19日(木) とわの森三愛高校(志望校体験ツアー:学生3名)
- 女満別高校(教員1名)
- 25日(水) 札幌真栄高校(大学見学:学生1名)

体育祭も終わり、これからのメインイベントはやはり、「大学祭」。文化・芸術の祭典として、近年ますます、充実してきた感があります。喜ばしいことです。今年もより一層充実した内容を、皆さんにお届けしたいものです。